

長崎県の美しいまちづくり

世知原の石橋群編

世

知原は佐世保市北部に位置し、本県では珍しく四方を山に囲まれている、豊富な湧き水とお茶がおいしいまちです。かつては炭鉱のまちとして大いに賑わっていましたが、今ではゆつくりと時が流れ、大自然に心が癒されます。

さ

て、「石橋」と聞くと長崎や諫早の眼鏡橋を思い出す人が多いと思いますが、実はここ世知原にも石橋がたくさん残っています。県北地域最大の佐々川の最上流の本流・支流合わせて17基架かっている世知原の石橋群（長崎県景観資産1・20号）は、基数・学術的価値ともに目を見張るものがあります。

そ

もそも県北地域の石造技術の歴史は、江戸時代初期まで遡ります。平戸に入港したオランダ人技師が地元の大工に伝授し、その弟子たちに伝承され、後に県北一帯に広まったと考えられています。

県

北地域の石橋の中でも草分け的な存在は、平戸市役所横に架かっている幸橋（国重要文化財）でしょう。別名「オランダ橋」と呼ばれているこの橋は、藩主が木製の橋を石造りに改める際に、長崎の石工に依頼しようとしていたところ、「自分たちで造れます」と進言した平戸の石工達が自ら造ったと言われています。当時の県北地域の石工達が他地域に負けない技術力と誇りを持っていたことがひしひしと伝わるエピソードではないでしょうか。

また、優秀な石工に加え豊富な石材にも恵まれたことも、山あいの小さなまちにこれだけ



倉渕橋



桐の木橋

の石橋が集中する背景となりました。

そ

れでは、いろんな姿の石橋に出会うために世知原をゆつくり散策してみましょう。

まちの中心部にある噴水公園から歩くと程なく、県内の単一アーチ石橋では最長の倉渕橋（長崎県景観資産2・66号）が美しい姿を水面に映しています。橋の下はバリアフリーの釣場となっており、誰でも楽しめる憩いの場です。

まちの東側にある集落の入口付近には桐の木橋（長崎県景観資産2・65号）が架かっています。

傍のベンチに腰掛けると、石橋は架橋当時のままの姿で佇み、周りの田園風景とも相まって、まさにノスタルジックの極み！

旧国鉄世知原線跡を利用したサイクリングロードを吉井方面に進むと祝橋（長崎県景観資産2・64号）が見えてきます。川幅が広い分、橋長が長くなり雄大な景観となっています。



祝橋

他

にも、洪水でアーチ部のみに残り、アーチ技法を見える上で貴重な奥の口橋や、いまだ生活道路として住民にはかかせない古山橋などがあり、一つひとつに違った表情を見せます。天気の良い日にピクニック気分で世知原の石橋巡りはいかがですか？

〈参考 世知原町郷土誌〉